

# 学力研の広場

## 「春の先生のための学校」開講しています

いよいよ新年度が始まりました。学力研では、新年度に向けて今から準備をしようという先生方の不安をちょっとでもなくしたい。どの先生方も楽しく「学級開き」を迎えてほしい。そんな思いで「春の先生のための学校」という連続講座を企画しています。新任の方、若手の先生、ベテランの先生、どんな先生にも役に立つ講座になっています。学級が自治へ向かう授業づくりや学力づくりについての内容が盛りだくさんです。

今月号は、その講座の一部分をご紹介します。広場を読まれて、興味を持たれた方、もっと聞きたくなった方は、ぜひ「春の先生のための学校」でお待ちしております。新年度、子どもたちと共に良いスタートが切れますよう、また先生方のご参考になれば幸いです。(李)

## CONTENTS

### ◇特集「春の先生のための学校特集」◇

「リズム漢字」「読み上げ漢字」「的当て漢字クイズ」	鈴木基久・・・2
保護者ととともに子どもを伸ばす	根無信行・・・4
自治を目指した給食・清掃指導のポイント	吉田雅直・・・7
【朝の会・帰りの会】の目標意識が学級を変える	福島 尚・・・9
困っている子にどう対応するか	岸本ひとみ・・・11

### ◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える連載 88「意欲格差」に負けない！公立小学校へ	岡本美穂・・・13
考える力をつけるための授業の組み立て方②三年理科「電気の通り道」全授業②	荒井賢一・・・15
教科書「を」と「で」で教え・学ぶ社会歴史授業「大単元の導入 時間旅行」第一時間目	深澤英雄・・・17
リレー連載「シン読解力をめぐる冒険 新井先生の魅力」	久保 齋・・・20
局長・常任委員長だより	・・・22
学力研カレンダー	・・・23

※久保先生の連載は、都合により休載させていただきます。

## 「リズム漢字」「読み上げ漢字」「的当て漢字クイズ」

鈴木基久

4月12日(日)の先生のための学校(オンライン)で漢字指導の講座を担当することになった。2年生、3年生の担任として私が取り組んだ漢字指導についてまとめてみた。

### ①リズム漢字

学力研では定番となった「リズム漢字」は、学年の新出漢字を全て含むリズム文で構成されたコンパクトさが売りの教材である。CDの音源に合わせてチャントのように唱えれば、楽しく音読しながら漢字学習ができる。学級のみんなで声を合わせて音読すると一体感があって一層楽しく学習できる。

新学期であれば、新しい学年のリズム漢字を配付して音読することで、今年の新出漢字に一通り触れること

ができ、一年間の見通しをもつことができる。また、前学年のリズム漢字を唱えることで既習の漢字についても効率よく復習することができる。

リズム漢字には、まとめシート(書き)があり、読めるようになったリズム文をそのまま書き込めるテストになっている。このまとめシートを使えば、前学年の漢字がどの程度書けるかを把握するための実態調査としても活用することができる。

光村図書の教科書では、3年生と4年生の1学期の新出漢字が極端に多いので新出漢字の学習でいっぱいになってしまふ。しかし、1学期中に期間を設定して、前学年のさかのぼり学習をすることは必要である。その時もリズム漢字を上手に使えば、効率よく取り組める。

### ②読み上げ漢字

7年前、漢字が苦手な子の答案を見ると書けないだけでなく読めていないことに気付いた。感想は分かるが、予想は読めない。人と口を知っている人も人口を知らない、油と田を知っているも油田を知らない。だから読めない。つまり正しく読むには知っている言葉を増やすしかない。

そこで、読み先行の学習で語彙を増やすことをねらって開発した教材が「読み上げ漢字」である。

読み上げ漢字のメリットは、

- ・音読は苦手な子でもできる。
- ・1枚が2〜3分で終わる。
- ・丸覚えの力を活用できる。
- ・授業でも家庭学習でも使える。

授業では、みんなで一斉に音読したり、ペアでチェックし合ったりすることができふ。

読み上げ漢字には、①おさらい読み上げ漢字(既習の復習用)と②読み上げ新出漢字(光村図書版と東京書籍版)があるので活用してほしい。

### ③ つぶやき漢字

「つぶやき漢字」は久保先生が考案された指導法である。「糸かいて田かいて細い」のように漢字を分解してつぶやきながら覚えていく。分解したものが漢字や片仮名、部首になっているので、文字に対する知識が広がるのが期待できる。

昨年度、2年生で「漢字のたし算を作ろう」の授業をした。

門十日間 田十力男

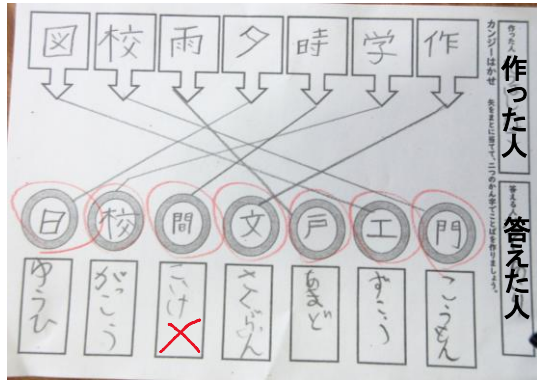
日十寺時 日十生星

竹十合答 十十口古

のように例を示した。子どもたちは教科書やドリルで調べて式を作っていた。驚いたことに、数人の子どもが100個以上も式をノートに書いた。もっとやりたいという声が聞かれたので、図書室から借りた漢字辞典で調べた子もいた。夢中になった子は家でも調べたと言っていた。「子どもは漢字学習が嫌いなのだろ。う。」という従来のイメージを打ち壊す子どもたちの表れに目を見張った。

### ④ 的当て漢字クイズ

光村図書2年下の「カンジー博士の大発明」に的当て漢字の問題が載っているのでワークシートを作った。



- ・ 問題作成者は、誤字に気を付けて漢字を書き、語彙を増やせる。
- ・ 子どもの語彙で問題を作るので、さまざまな難易度の問題ができる。
- ・ 友達の問題を解くので、やる気が持続し、何枚も取り組める。
- ・ 問題作成者が〇つけをするので、子ども同士の繋がりができる。

今回の授業で、日常的に「的当て

漢字クイズ」に取り組むことで、語彙を増やすこと、正しく漢字を書くこと、友達と繋がりがから楽しく学べるのが期待できると感じた。

### ⑤ 漢字言葉集め

語彙を増やすことをねらって「漢字言葉集め」を作った。新出漢字を含む言葉をワークシートに書く。

・ 合：答えが合う 合計 合体

・ 細：細い 細かい 細工 細心

これにより、送り仮名の確認もできる。読み上げ漢字を参考資料として活用することもできる。

### ⑥ 平仮名・片仮名

2・3年生では平仮名と片仮名の50音表がそれぞれ2分以内で書けるかのチェックを4月にしている。また「絵を見て答える片仮名プリント」では、長音や拗音、拗長音などの表記が正しいかチェックできる。

4月12日の「先生のための学校」オンラインに是非、御参加ください。

# 保護者ととともに子どもを伸ばす

大阪 根無 信行

## 一、はじめに

学校現場では、私たち教師が直接関わるのは目の前にいる子どもたちですが、その向こうには、子どもの成長を、学校に通わせることでも願う、保護者がいます。

昨今の様子を見てみると、保護者が学校に子どもを通わせることで期待している内容はさまざまで、仕事をしている間に通わせるどころ、給食をしつかり食べて元気に過ごしてほしいところ、という、「受け皿」的な希望もよく聞きます。が、それでも多数は、学校に行っている長い時間、その中の7割を占める授業時間を通じて、子どもが将来困らない学力と、快適な集団を自分たちで作っていく力を学ぶために通わせているのだと思っています。朝、子どもたちを起し、朝食を取らせ、前日までに洗濯、持ち物の用意を整えて送り出し、返ってきたら手紙に目を通し、夕食を取らせてまた次の日の準備……。このルーティーンを長年続けられる原動力は、学校で学んで力をつけて成長してほしい、という、保護者の願いによ

るものだと思っています。

そうであるならば、保護者と学校の思いは同じです。「学校は学力をつけるどころ」として、ともにつながり、協力する関係を大切にしたいものです。

## 二、保護者とつながるアイテム

小学校に入ると、直接担任が保護者と会うのは、入学式を除けば、どの学年も2〜3週間後の授業参観か、家庭訪問までありません。（参観も保護者と直接会話をする機会はほぼありません）。学校から、または家庭からの連絡は、子どもを中継して行われるのが基本になります。保護者とつながるといふ事は、困ったら相談し、どうすれば全てを知らせなくても、学校での生活に安心してもらえるかだと思えます。そこで、それができる手立てとして、次の4つを上げます。

- ① 学年・学級通信
- ② 連絡帳
- ③ 参観日
- ④ 学年・学級懇談会 です。

①の学年・学級通信ですが、担任とまだ会っていない保護者にとって、新学年の情報は、子どもたちの伝達と、この通信のみです。そこで、最初は、『担任になれてうれい！』という気持ちと、『こんな子どもたちに育ってほしい！』ということを書き添えます。そして、先ほどの『学校は勉強するところ、しっかり勉強をしていきます』というメッセージと、力を伸ばす取り組みの姿勢を、子どもたちに知らせることを通して伝えます。

さらに、「叱る場面」してはいけないことは何か、を子どもと確認しておきます。もちろん子どもたちのためですが、おうちの人も、「先生は甘い」とか、「厳しい先生がいい」とか、「先生に怒られたといっています」とか、自由な発言をされる保護者もおられますので、こちらが押さえているポイントを知っておいてもらうことで、教育方針に理解を求め、安心してもらうのです。私は、初めの通信の文中には、「だから、けっして、不安に思わなくて大丈夫です。」と必ず書き添えるのですが、それは、おうちの方へのメッセージでもあるのです。

次に②の連絡帳です。これが一番気軽に保護者からつながってもらえるツールになると思います。そのためか、自分で出来事

などをまだ上手に話せない保育園などでは、先生がしっかり書いてくださるので、その延長で、質問や苦情など、連絡帳に繋がりを求め、書いてくる親御さんもおられます。ただ、小学校の連絡帳は、保育園のそれとは違う、もっとシンプルなものと考えています。私自身、昔に子どもを叱った話や経緯などを連絡帳に長々と書いてしまったこともありました。ネガティブな内容の文章を、連絡帳に書けば、文字として残ってしまいますし、保護者からあった苦情に行う返信も、言葉のニュアンスで必要以上の混乱を招くかもしれません。そこで、なるべく長くなりそうな苦情や、即答できない質問の連絡帳には、また〇〇時ごろに、お電話させていただきますかと思えます。とだけの返事にして、電話で直接話すことにしています。そして、できれば子どもが伸びたことや、いいことを見つけた時、さらりと連絡帳に書くことをおすすめします。教師も保護者も子どもも、いい思いの残る、ポジティブ連絡帳の出来上がりです。

③の、参観日について。保護者は、子どもがどんな授業を普段受けて毎日過ごしているのかということを知りたいと思っっています。ですから、初めての参観授業は、普段以

上手に手の込みすぎた授業や、時数の少ない教科(例えば体育など)を参観してもらうより、毎日授業のある国語や算数をする方がいいと重なります。いつもの形に近い授業を見てもらうことにより、「うちの子どもは毎日こんな授業風景の中で過ごしているのだな。」という思いを持ち帰ってもらうことができたかと思っています。一年間のクラスの様子も見てもらうことができます。新出漢字もいでしょう。保護者にとっては、子どもが授業中どんな動きをするのかというの、最大の注目点です。(授業内容よりも注目度は高いのではないのでしょうか。)全員発言ができれば理想ですが、人数や時間の関係で難しいことも多いので、一斉に声を出して音読したり、ノートに記入したり、隣どうして話し合うなど、講義中心ではなく、活動の見られる時間を取り入れるようにしています。そして最後には、子どもたちが今日行った授業で伸びたところをほめ、学校の中で子どもたちが成長していることを感じてもらえることができればいいなと思います。

④の懇談会は、家庭訪問がなくなっている学校が増えてきている中、学校と保護者が直接話せる貴重な機会となっています。懇談会のはじまりの自己紹介ですが、保護者には、子どもさんのいいところを、一つ言っただけからおっしゃってください。と振りまします。「えーないー」などと返されますが、結構言ってくれます。優しいとか、頑固やけど辛抱強いとか、おうちの方の愛を感じられて、空気も和みます。また、お土産と称して資料を用意しておきます。当該学年の学習の内容を、分かりやすく簡単にまとめておきます。学力研の夏フォーラムで、各学年の特徴をまとめた基調提案をもらっているのですが、それを参考にして保護者向けにしています。学校の7割の時間受けている授業、どんな力をつけるための一年なのか、を知らせておくことは、保護者にとって安心につながるものと思っています。生活指導の目的も、学力とつなげて話しました。特に、私は授業中のタブレットの使用頻度が少ないので、(昨年と比べて)なぜ使わないのかと思われる保護者には、「一日の画面を見る時間をできるだけ減らすため」と伝えられています。昨今は、個人持ちのスマホに加え、学校がタブレットを配布することになり、

SNSトラブルも増えてきました。しかし、指導といっても、学校ではどうしようもないものが多いので、「いやならさせない・持たせない」と予防線を張っています。懇談会に残ってくれる保護者の方ほど、学校のことに意識を向けてくれる方なので、より懇談の果たす役割は大きいと思いました。

### 三、「学校は勉強するところ」の捉え方を 保護者もともに持ってもらう

先日の卒業式、自分の子どもも学校、また勤務校でも、『正解』／(RADWIMPS)という曲が歌われました。ここ二年、卒業の歌に選んだ学校も多かったと聞きます。

しみじみと歌を聴きながら、過去の卒業式に歌われていた曲とは、歌詞の持つ雰囲気や感じが違ふなと感じました。歌詞に、卒業目前の生徒目線の、こんなフレーズがあります。「ああ 答えがある問いばかりを教わってきたよ」「ぼくたちが知れたかったのはいつも正解などまだ銀河にもない」「答えが既にある問いなんかには用などはない」。この歌詞をそのまま受け取ると、「学校に勉強は望んでいない」と聞こえます。けれど、「答えのある問いには正解を出せるよう、教える育て、いざ学校から出たときに、学んだ正解

を土台に、まだない新しい問いにもたどり着くことができる力を、子どもたちにつけていくことが、学齢期の学校の役割なんだよなあ」というのが本心です。歌の最後には、「僕だけの正解をいざ探しにゆく」という歌詞につながっていきまます。学校で力をつけて卒業したからこそ、「ぼくたちが知りたかった」といえる内容の答えを探す、主体的な学びへ向かえるのだと思います。「答えがある問い」の「正解」にすらたどり着けないまま卒業だけをさせてしまわれては、保護者としても心配です。私は、作詞をしたアーティストや選曲した先生が、「学校は答えがある問いばかりしか教えてくれないところ」という否定ではなくて、あえて「答えがある問いに正しく答えられるだけの力をきちんとつけてくれるところ」「そのつけた力でこれからの人生で自分の問いの正解を自分で探そう」という意味をこめてこの歌に仕上げ、選んだ想いが感じ取れて、いい曲だなあと思ったのですが、自分の子がそのまま読み取って歌っていたのか・・・は聞いていません。(笑)

学校生活をふり返って、思い出がないのはさみしいと感じるのでしよう。すると、学校での勉強より、「友だち」や「人間関係」

「しかられたこと」をクローズアップしがちで、「勉強」は卒業までの思い出にとって「用などはない」ものであったように捉えてしまいがちです。そんな子どもや保護者であっても、それはイメージであって、事実ではないと思います。授業をとおして、共に学ぶ中で培われる人間関係や交流は、子どもの将来にとって大切な力となって残ります。学校は勉強するところ、という意識で、授業の中で仲間との学びは、ちゃんと、思い出になります。何より「答えがある問い」に答えられる力がつき、それがなければ別の問いの答えなど求めたくはなりません。

時代が進み、社会的背景も多様化し、勉強だけが全てではない、学校に来るだけ、給食を食べるだけでもいい、と受け皿を広げてきたのもまた学校です。良いことだと思えます。けれどもそれに偏らず、学校へは「みんな、勉強をしに行くんだ」という思いを、学校はもちろん、保護者にも一緒に持ってもらうことで、その気持ちは子どもへも伝わっていきます。学校、子ども、そして保護者とともに学力づくりのできる学校にしていけたらと思います。



# 自治を目指した給食・清掃指導のポイント

大阪 吉田雅直

のでおすすめですよ。

給食と清掃は学級づくりのバロメーターです。給食の時間が平和で、子どもたちが力を合わせて一生懸命掃除をするクラスは、学級づくりがうまくいっていると言えます。逆に、給食の時間にトラブルが多発したり、掃除をさぼる子が増えてくると、学級づくりに何か問題があると思っただ方がいかもしれません。

② 取りに行く時も「だまって」が基本です。しゃべりながらだと、食器をわったり、こぼしたりという事故が多発してしまいます。低学年では「足音を立てずに」と言うと、自然とおしゃべりがなくなりま

す。これは、教室移動のルールの定着にもつながるので、ぜひ一年間こだわってほしいと思います。

給食指導のポイントは、①準備はテキパキと②静かに取りに行く③民主的なルールの確立④食後の過ごし方です。

③ 民主的なルールとは、おかわりやお減らしについて、みんなが安心・納得できるシステムを確立するということです。要領

① 給食の準備は、エプロンに着替え、手を洗って並ぶまで「だまって」「三分で」と決めています。ここでしゃべりながらだんだらさせてしまうと、その雰囲気をつつと引きずってしまうので、時間を決めて、だまってテキパキとさせることが大切です。「今日は二分でできたね」など記録に挑戦するのも効果的です。

のよい子だけが得をするようなシステムを許しているようでは、教師の権威は地に落ちます。子どもたちの意見を取り入れつつ、自分勝手は許さないという毅然とした姿勢を示すことが大切です。また、みんなが残飯を減らそうという取り組みは、「協力」を日常的に実践できる

④ 食後の過ごし方は、「読書」がおすすめです。お絵描きやタブレットを〇にしないでしまうと、本嫌いな子はそちらに流れてしまいます。読書しかない状況をつくることで、読書習慣がない子ども本を読むようになり、好きになっていきます。

清掃指導は、学校生活の中で唯一、勤労生産的な教育の場です。私は、掃除は教室をきれいにするだけでなく、「心をみがく掃除」と位置付けて、指導しています。

心をみがく掃除は、細かい役割分担をさせません。これは、自分がいま何をすべきか、考えて行動できるようにするためです。「ほうき」「雑巾」「黒板」など、細かく役割分担をしようとして、子どもたちは考える必要がなくなり、掃除は与えられた「作業」になってしまいます。これに対し、心をみがく掃除では、「雑巾が少ないから今日は雑巾をしよう」など、状況に応じて、自分のすべきことを考えて行動できるようにします。もちろん、はじめは「やりたいこと」や「楽しそうなこと」に

流れてしまう子もいます。しかし、「やりたいこと」ではなく、「すべきこと」をするのが掃除だと伝え続けることで、子どもたちの意識が変わり、動きが変わってきます。だれもやりたがらない仕事を率先してやろうとする子が一人二人と増えてくると、教室の雰囲気が変わってきます。掃除に「考える」という視点をプラスすることで、掃除を「作業」から「自治を育てる取り組み」へと高めることができるのです。

心をみがく掃除では、「三つの玉をみがく」ということを大切にしています。それは「がまん玉」と「しんせつ玉」と「みつげ玉」です。「がまん玉」は、だまって掃除することで、「しんせつ玉」は、友だちと力を合わせて掃除すること、「みつげ玉」は、だれもしていない所を掃除することでみがくことができます。

この中で、一番大切で、一番難しいのが「がまん玉」です。「だまって掃除する」だけなのですが、はじめのうちは、ついしゃべってしまい、一分ともたない子がたくさんいます。しかし、続けているうちに、だまって掃除することのよさに気づきはじめる子が出てきます。だま

って掃除すると、周りが見えてきます。すると、「あの子、ちりとりがほしそうだな」と気づき、ちりとりを持って行くことができます。また、「たながほこりだらけだな」ということに気づき、きれいにすることができず。つまり、「がまん玉」をみがくことが、「しんせつ玉」や「みつげ玉」をみがくことにつながるのです。このことを子どもたちに伝え、「がまん玉」こそが「心をみがく掃除」の最大のポイントであることを力説すると、だまって掃除できる子、しようとする子が少しずつ増えていきます。

心をみがく掃除のもうひとつのポイントは、「無理に掃除をしなくてもいい」ということです。掃除をすると遊んでしまいそうになったり、しゃべってしまいそうになると感じたときは、掃除をしなくてもいいと伝えます。これは、嫌みや皮肉をこめて言うのではなく、本当にしなくていいよと伝えます。そのかわり、掃除ができそうになるまでの間、掃除をしている人を「だまって見守る」ということをルールにします。この話をすると、ほとんどの子は、だまって掃除することを自ら選

択するのですが、なかには、本当に「だまって見守る」ことを実践する子もいます。今年の三年生でも一人だけいましたが、みんなが机を運び始めたタイミングで、「これならできそう」と思ったのか、いっしょに机を運び始めそこからはみんなと力を合わせて黙々と掃除をがんばることができていました。

このように給食も清掃も、単なる「作業」としてこなすのではなく、みんなで力を合わせて誰もが心地よく過ごせる学級をつくるという意識を育て、自分たちのことは自分たちで考えて行動するという「自治の精神」を養うという明確な目的意識を持って取り組み、ことで、大きな成果につながります。


給食も清掃も、基本的に毎日することなので、毎日の小さなプラスが一年後には大きなプラスとなって返ってきます。定着するのに時間はかかりますが、一度教室文化として定着すると、教師の手を離れ、子どもたちがどんどん進化させてくれます。新学期がスタートしたら、まずは「教室文化の種」をまき子どもたちと一緒にじっくりと育てるところからはじめてみてはいかがでしょうか。

# 【朝の会・帰りの会】の目標意識が学級を変える


福島 尚(神奈川県)


どこの小学校でも【朝の会・帰りの会】を行っていると思います(ネーミングは違ってもシンプルなものにしました②)。

【朝の会・帰りの会】は、なぜ【朝の会・帰りの会】を行うのでしょうか。行うのが当たり前だからでしょうか？どの先生も行っているからでしょうか？学習や係活動などは、はつきりとした目標が見えやすいですが、【朝の会・帰りの会】はどうしても毎日繰り返される日常の一部となりがちな気がします。自分はそうでした。初任者の頃は、あれもこれも盛り込んでしまっただけの毎日でした①←初任の時のもの。

- 朝の会メニュー 
1. あいさつ
  2. けっせきしらべ
  3. 日直のスピーチ
  4. きょう がんばりたいこと
  5. 先生の話
- ①

これだと時間がかかりだめだと思い、とてもシンプルなものにしました②)。

- 朝の会メニュー 
1. あいさつ
  2. けんこうかんさつ
  3. ①ゲーム(火曜日)
  - ②リコーダー(水曜日)
  - ③歌(金曜日)

- 帰りの会メニュー 
1. リコーダー(月曜日)
  2. あいさつ

時間がかからなくなったことで一時間目に食い込むこともなく、そして帰りも早く下校できるようになり、順調だと思っていました。しかし、先輩のクラスを見させてもらったときに【朝の会・帰りの会】が充実している姿を目の当たりにしキラキラ輝く目にとった十分の時間が子どもたちにとって非常に大事な時間であることを痛感しました。つまり、【朝の会・帰りの会】は学級全体を変化させていく、というか確固たる目標が

そこにあるのです。そのためには、担任がどのような意図を持って取り組むかが大切となってきます。これまでの取り組みを通して現在の自分は次のようなことを意識しています。

- ・最初はシンプルなものにする。徐々に内容を変化(パワーアップ)させていく。
- ・受け身にさせない。子どもが主役の部分をつくる。

まずは、上で示したように②ぐらいの内容でスタートします。子どもたちが少し物足りないぐらいの気持ちになっていると、「もう少し○○しないのかな。」「前は□□をやっていたけどな。」などの言葉が始めます。最初は教師主導だったのが、段々と子どもたちとつくっていくような形となります。その際に注意しなければならぬことは、声(意見)を出す子どもの要望をすぐに盛り込まないということです。一つ選択を誤ると、一部の子もだけで出来上がってしまうからです。その場では一つの意見として受け取り、でも決めるときはクラス全体で、という

## 帰りの会



「これから帰りの会を始めます。」  
「めあてをふりかえりましょう。」

### 1. めあてのふりかえり

「今日の☆きり☆」  
「今日見つけたなだちの  
いちばんほしを伝え合いましょう。」

### 2. 今日の☆きり☆

「先生の話、先生おねがいします。」

### 3. 先生の話

「あいさつをします。」  
「おきさん立ってください。」

### 4. あいさつ

## 朝の会



「〇月〇日」  
「これから朝の会を始めます。」  
「おきさん立ってください。」

### 1. あいさつ

「けんこうチェックをします。」  
2. けんこうチェック

「朝の声出し、今日も1日  
元気よくスタートしましょう。」

### 3. 朝の一声

「今日のめあては〇〇です。」

### 4. 今日のめあて

「先生の話、先生おねがいします。」

### 5. 先生の話

③

ことを促すようにします。そのような姿勢がクラス会議を行うときにもポイントとなつてきます。

また、変化(パワーアップ)させていくときに「朝の会・帰りの会」だけにフォーカスするのではなく、学習や係活動とも連動させながら行っていきます。そうすることで必然性が生まれ、自然と内容が濃くなっていきます。(③)

その中で、自分が一番大切にしているのが帰りの会で行っている「今日の☆きり☆」☆というコーナーです。低学年だと、「キラキラ見つけ」「今日のがんばり賞」のような感じで取り組んでいる先生もいらっしゃると思います。そのような取り組みと同じで、一日の中で見つけた「友達のスてきなところ」を発表するコーナーです。すてきなところと言っても、何も目的もなく子どもたちに発言させているだけでは、おきまりの「〇〇さんがランドセルを持ってきてくれました。」「や」「〇〇さんが消しゴムを拾ってくれました。」「や」というような、ただの報告会となつてしまいます。初めはそれでもよいのですが、そのままの取り組みであると、なかなか友達のスてきなところは出てきません。だからといって担任がモデルのようにスタートから発信してしまうと、子どもたちは担任に言われることがかり気にしてしまうようになりがちです。そして、最終的には何回担任に言われたか、回数を競うようになってしまいます。そうなるとうまくいかなかったのか、何のためのコーナーなのか子どもたちが分からなくなってしまうかもしれません。そうではなく、子どもたちが自

分が見つけたことを言いたい!という気持ちになることが大切だと自分は考えています。そこで、普段の生活の中で友達に助けてもらったり声をかけてもらったりしたことを学級内で、担任が「独り言」のように発信します。ただし、少し曖昧に「...」「それは助かったね!」「今の言葉でできるようになってたね!」など。そうすると子どもたちは「何て言ったの?」「や」「どうやって?」「担任に聞いてきます。聞かれても自分は答えません。」「言われた本人に聞いてごらん」と言います。すると、子ども同士が「どういふこと?」「と聞くようになります。すると、詳しいいきさつを聞いた子どもたちは共感したことを伝えたくなり、帰りの会で話し始めるようになります。これが連鎖し始めると、友達とのつながりを感じるようになります。そして、みんなが関わり合いたくくなります。そして、みんなが自分のことを見られる安心感へとつながります。プラスの言葉が教室で溢れていくことで、想いが高まり自分のクラスをもっと好きになっていきます。クラスをどうしているかが、「朝の会・帰りの会」にはたくさん詰まっています...

困っている子どもにどう対応する？

|| 特別支援は科学です ||

いろえんぴつ 岸本 ひとみ

「困った子は、困っている子」

とはいつもの

確かに、子ども側から見ればこれは真実ですが、指導する側からすると、なかなかこんなにすっきりしたものではありません。それは、困っている要因が、あまりに多すぎて、どこから手をつけたらいいのかかわからないから、というのが正直なところでしょう。

交流学級で学習する子どもの場合

大きく分けて、2つのパターンの子どもさんが、いっしょに学習することになります。

○情緒的に不安定なお子さん

こだわりが強く、うまくいかないことがあるとパニックになったり、教室から跳び出してみたり、激高して叫び出したりすることもあります。最近では、HSP傾向のあ

るお子さんが多く、黙って静かに困っていて、タンクが満杯になった時点でダウンしてしまうこともあります。

どちらかというところ、パニックを起こしたり、叫び出したりするお子さんが、困り感を表現してくれるので、対応がしやすいのです。何に腹を立てていたのか、何に気が障ったのか、その場の状況を、都度記録していけば、3カ月ぐらいたつ頃には、パターンがわかってきます。

HSP傾向の場合は、日々「どう？できそう？」とたずねながら、手探りで授業を進めることとなります。本人が「できそうにない。」と伝えてきた時には、「じゃあ、みんなのするのを見てね。できそうになったら、やりましょう。」としか言いようがありません。だって、他児の授業の進行を止めてしまうことはできませんから。

ところが、このタイプのお子さんたちは、

少しぐらい遅れても、すぐに取り戻せるケースが多いのです。今日は無理でも、そのうちできるようになるかも、というスタンスが大事です。

担任の先生や支援員さん、またコーディネーターの先生に話を聞いてもらうことで、自分のストレスと向き合って、折り合いをつけられるようになるまで、待つことしかできません。

多動傾向で、イライラしがちな場合、ペン回しを教えると、自分が退屈したときには、静かにクルクルやって、何とか気を紛らわせることもできます。低学年だと、机の天板の裏側に人工芝をボンドで貼り付けて、それを触ってイライラを紛らわせるタイプのお子さんもあります。指ツボ刺激グッズをにぎにぎして、気が紛れることもあるのです。

片づけられないお子さんの場合は、机の横に箱を置いて、学習用具を全部そこに入れるようにすると、散らかって片づけに時間がかかることも少なくなります。

どれも保護者に了解してもらって、他児

## ディスレクシアの見え方の例

<p>冬の朝、おじいさんはま ず兩戸を引き開けまし た。ひんやりした空気が 流れ込んできました。</p> <p>二重に見える</p>	<p>でずんけ流たじれ開ん 雨だりさま気をし。 ま、し冬お戸んいやた の空はたひ引し朝ま</p> <p>踊るように見える</p>	<p>冬の陣、はじりさふおま ま兩戸を引き開けまし た。ひんやりした空気が 流れ込んできました。</p> <p>反転して縦文字に見える</p>	<p>冬の朝、おじいさんはま ず兩戸を引き開けまし た。ひんやりした空気が 流れ込んできました。</p> <p>揺らいで見える</p>
--	--	---	---



Hpより引用

にはきちんと説明した後に取り入れるやり方です。

### ○特定の領域の理解が進まないお子さん

まずは、ディスレクシアではないかと疑います。これも、疑問を持ったら、コー

ディネーターの先生に参観に入ってもらって、いろいろアドバイスをもらえばいいのです。

### ◇スリットや定規を使うことで軽減

どこを読んでいるか迷子になりがちなお子さんの場合、スリットを持たせたり、定規(透明なもの)を使って、読むところを限定していくという方法もあります。

そこまでしなくても、こんな方法を入れてみるだけでも、効果はあります。低学年では、よく、指差し確認をします。「はい。では、120ページの3番四角に、指をべたツ。」という声かけです。中学年でも、なかなか落ち着かない子どもたちには、この方法がけっこう効果的です。

### ◇九九の表を持たせる

3年生以上になると、かけ算九九がスラスラ出てこないお子さんは、算数の時間にはあきらめ顔になってしまいます。そういう場合は、思い切って九九の表を持たせてしまうことも考えます。引き算や足し算の

お助けシートもあります。

マス計算や読み上げ計算で、強化する実践も継続して進めつつ、授業中はお助けグッズを使って、理解を深めることを優先すればいいのです。

### いつも、本人(と保護者)と相談する

いろいろな支援方法があるので、それを導入しようと考えた場合、まずは、お子さん本人と相談しましょう。「こんなやり方でがんばってみたらどう？」と、声をかけて、「やってみる。」となった時には、保護者にも伝えます。

その後、周りの子どもたちにも、伝えます。その伝え方も、保護者と相談します。クラスのみんなも、みんなができるようになるにはどうしたらいいと思う？と、常に問いかけていると、「なるほど、そんな方法があるのか」と、納得してくれます。子どもって、ホントに素直ですよ。

**私の目標は、困り感と支援方法を、10才(の壁)までに確立して、全体に理解させること、です。**

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

### 4月からの漢字指導で気をつけたいこと

#### ■書く量が多すぎて、

#### 作業になってしまっている

漢字指導の場面では、教師が「量」をもって学びを保証しようとしてしまうことが少なくありません。「3回ずつ書こう」「ノートの1行練習をしよう」といった声かけは、教師にとっては手軽でわかりやすく、授業の流れも作りやすい方法です。子どもにとっても、何をすればよいか明確で、活動としては取り組みやすいように見えます。しかし、この書く量で勝負する漢字指導には、実は大きな落とし穴があります。

まず、量をこなすことが目的化してしまうと、子どもにとって漢字を書くことが「作業」になってしまいます。作業になった瞬間、集中は続きません。形を意識することよりも、「終わらせること」が優先されてしまうからです。教師が「あと何行」「あと何回」と量を基準に声をかけるほど、子どもは「どう書くか」「どれだけ書くか」に意識が向いてしまいます。

その結果として起こるのが、誤った形のまま覚えてしまうという問題です。漢字は一度間違った形で定着すると、後から修正するのが非常に難しいものです。特に低学年では、まだ筆圧や運筆が安定していません。形を意識せずに書き続けると、クセがそのまま固まってしまいます。量を積むことが、かえって誤学習を助長してしまうのです。

本来、漢字の学習で大切なのは「どれだけ書いたか」ではありません。大切なのは、どこに気づき、どんな形を意識して書いたかという「質」の部分です。つまり、漢字の「気づき」の時間を確保することが欠かせません。漢字指導での気づきとは、書く前に「今日の漢字のポイント」を一つだけ示すこと。書いた後に「どこがうまく書けたか」を自分で見つける時間をつくること。友だちと見せ合いながら、良いところを言葉にすること。こうした関わりが、子どもにとっての「気づき」を生み、学びの質を高めていきます。

また、量を基準にした指導は、子どもの実態に合わないことも多くあります。書くスピードや集中の持続時間、筆圧の強さは一人ひとり違います。それ

にもかかわらず、全員に同じ量を課すと、早く終わる子は作業的に書き進め、ゆっくりの子は焦りながら形を崩してしまうという状況が生まれます。量をそろえることで、学びの質を下げってしまうのです。量を書くこと自体が悪いわけではありません。しかし、量を書く前に必要な「気づき」がなければ、どれだけ書いても学びにはつながりません。

#### ■漢字が覚えられないのは、

#### 子どもの努力不足ではない

漢字が覚えられないとき、私たちはつい「もっと練習すれば覚えられるのに」「努力が足りないのではないか」と考えてしまいがちです。しかし、漢字が身につかない理由は、決して子どもの努力不足ではありません。むしろ、覚え方が分からないまま、孤独な作業を続けていることに問題があります。

これまで、新出漢字の指導については、数多くの実践が紹介されてきました。しかし、その多くは「教師がどう教えるか」という視点に偏っていました。もちろん、教師の指導技術は大切です。しかし、実際に漢字を覚えるのは子どもたちです。それにもかかわらず、子どもたちが「どうすれば覚えられるのか」「どこに注目すればよいのか」を知らないまま、ただ書き続けるという状況が長く続いてきました。漢字学習は、従来の方法では「ひたすら一人で書く」という孤独な作業になりがちです。楽しくない、続かない、覚えられない。そうした悪循環の中で、子

どもたちは「自分は漢字が苦手だ」「どうせ覚えられない」と感じてしまいます。努力していないのではなく、努力が報われる仕組みがないのです。

そこで、つぶやきながら覚えることに学級で取り組んでいます。すると、漢字学習が一人の作業ではなく、仲間と一緒に取り組む活動へと変わっていきます。だからこそ、漢字が苦手な子どももほど「面白い」「覚えられるようになった」と感じるので。みんなで声を合わせるからこそ、覚えることが楽しくなり、記憶にも残りやすくなる。漢字も同じで、声に出し、リズムに乗せ、みんなで覚えることが、最も効果的な学習方法の一つなのです。

さらに、つぶやきながら覚えることで、漢字学習が「学級文化」へと育っていきます。従来のように一人で黙々と書く練習では、漢字は共通の文化になりにくく、「自分だけがいい点を取ればいい」という個人主義的な学びになりがちです。しかし、みんながつぶやいて覚えると、漢字を覚えるという行為そのものがクラスの共通文化になります。

実際に、漢字テストの前に、友だち同士で「ここははねるよ」「この部分は短いよ」と言い合いながら確認する姿が見られるようになりました。これは、漢字が「孤独な作業」からみんなで楽しむ文化へと変わった証拠です。書くことはどうしても個人作業になりがちですが、つぶやきは共有できます。だからこそ、漢字学習を学級文化として根づかせることができるのです。

## ■「読み先行」の漢字指導

あるとき、子どもたちに「国語は好きですか」とアンケートをとりました。すると、「いいえ」と答えた子どもの理由の中に、「漢字が苦手だからきらいです」という意見がありました。子どもたちは、漢字テストで百点をとれたという成功体験だけで国語を好きになることがあります。裏を返せば、「漢字が苦手」と感じた瞬間に、国語全体への意欲が下がってしまうということ。漢字のつまずきが、教科そのものの印象を左右してしまうのです。

では、どうすれば子どもたちが「漢字が苦手」と思わず、前向きに取り組めるようになるのでしょうか。その鍵となるのが、読み先行の漢字指導です。多くの子どもは、漢字は「書いて覚えるもの」だと思っけています。教師側も、つい「まず書いてみよう」と言っけてしまいがちです。しかし、漢字が苦手な子どもほど、書く以前に「読めていない」ことが多くあります。読めないまま書くことすると、形のどこに注目すればよいか分からず、ただ線を写すだけの作業になってしまいます。これでは、覚えられないのは当然です。

読み先行の指導では、まず「読めるようになること」を大切にします。読むことは書くことよりも簡単で、負担が少なく、成功体験を積みやすい学習です。読めるようになると、意味が分かり、使い方が分かり、形への興味が自然と生まれます。「あ、この

漢字知ってる」という感覚が、書く意欲につながっていきます。

また、読み先行の指導は、子どもたちの「気づき」を育てます。たとえば、読みながら「この部分は前にも見たことがある」「この形はあの漢字と似ている」といった発見が生まれます。こうした気づきは、書くときの手がかりになり、無理なく定着につながります。書く前に“理解の土台”をつくることで、読み先行の最大の価値です。

さらに、読み先行の指導は、学級全体の雰囲気を変えます。読む活動は声を出して行えるため、一人で黙々と書く練習とは違い、仲間と一緒に取り組むことができます。声を出して読むことで、漢字学習が「孤独な作業」から「みんなで楽しむ活動」へと変わっていきます。読みながらリズムをつけたり、クイズ形式にしたりすることで、漢字へのハードルが下がり、苦手意識をもつ子どももほど「できるかもしれない」と感じられるようになります。

漢字が苦手だと感じる子どもを責める必要はありません。覚えられないのは、努力不足ではなく、覚え方を知らないだけなのです。読み先行の漢字指導は、子どもたちの「できる」を増やし、国語そのものへの意欲を支えます。

## 三年理科 「電気を通り道」 全授業②

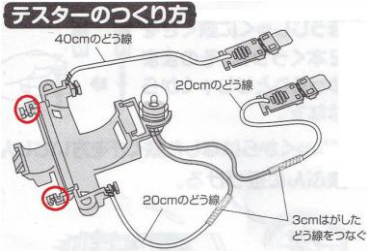
昨年度、三年理科四クラスと六年理科の四クラスを担当した。週24時間の理科授業は、体力的につらかった。

一年間を通して、ほぼ必ず教科書を使い、ノートを書かせ、なぜかを考えさせるような授業をしてきた。

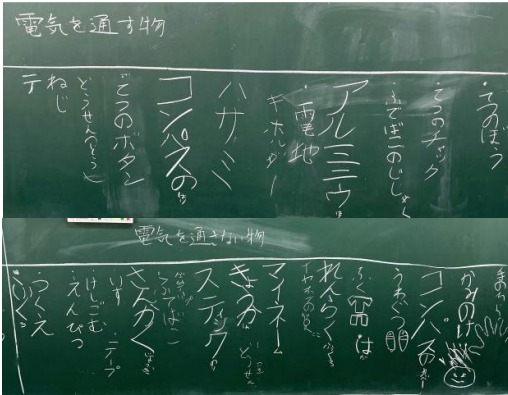
(ここからは、前連載の続きとなる。)

### 第四時

教科書の「電気を通す物・通さない物」や「どう線をつなぎ方」を連れ読みしてから、テスター作りを



始めさせた。  
今回、初めて説明書も配った。ただ、子どもたちが持っている乾電池は、単三なので、40cmと20cmのどう線をつな



調べた「電気を通す物・通さない物」を自由に書かせておいた。

ぐ場所が右の赤丸の方になる。

私の説明をちゃんと聞いてない子は、右の説明書通りのところに巻き付けていた。

「さささき作ってもいいですが、質問は受け付けませんよ。」

私は一つ一つ作らせながら、分からない子を前に呼んだ。早い子には、テスターで

### 第五時

教科書で、電気を通す物調べの実験の方法と調べる例を連れ読みし、ノートに「じっけん2」電気を通す物調べ」と書かせ、ノートを縦半分に分けて、左に「電気を通す物」、右に「電気を通さない物」と書かせた。

私が班の一つ持っている物も見せながら、「電気を通すか」「電気を通さないか」で手を挙げさせた。私が用意した物は、以下の通りである。

- ① 10円玉 ② 1円玉 ③ 5円玉
- ④ ゼムクリップ ⑤ 紙のコップ
- ⑥ ガラスのコップ (これのみ2つ。前に実験しにくるようにする。)
- ⑦ 鉄のかん (金麦)
- ⑧ アルミニウムのかん (コーヒー缶)
- ⑨ 木のわりばし

紙とアルミニウムはくは、キットの中の小さい袋に入っている。はさみやプラスチックの定規は、自分のものを使うようにさせた。

実験時間を10分間とった。(希望でさら

に3分間延長.)

スチール缶やアルミ缶は、表面を紙やすりで削ると、電気が通る。

ハサミの刃は、普通通るのだが、葉(さび止め?)を塗っているものは通らない。

道具を片付けてから、全体で、どれが通ってどれが通らなかつたかを確認。

教科書のとめを読ませた後、「鉄、アルミニウム、どうなどの( )は、電気を通す」をノートに書かせた。

※( )内は「金ぞく」。

## 第六時・テスト

4クラスの理科テストと採点が終わった。間違いが多かつた問題と、なぜそれを間違えたのかを推測

1 かん電池をつないで、豆電球に明かりつけます。



① かん電池のアイの極の名前を書きましょう。

② (マイナス) ③ (プラス)

乾電池の尖っている方が+(プラス)は覚えやすいが、逆にしてている子が何人もいた。これは、順番として「+、-」

として覚えていて、その通り書いてしまった、と考えていいだろう。

導線のつなぎ方につ

いては扱ったが、真

ん中以外では電気は流

れないという確認を

授業ではしていなかつ

た。

ビニールに意味をも

つと伝えるべき。

3年生のテストは、

1問10点で、裏表で

15問しかない。

それゆえ、5〜10分

程度で、多くの子がテ

ストを終えてしまう。

当然、見直しする時間もあるのだが、

それでも、勘違いしていたり、やり忘れがあつたりする。

電気を通すものを三つ選ぶのに、電気を通さないものを三つ選ぶ子もいた。それだけ

で、一気にマイナス30点となるから、怖いものである。

## 三年理科全単元全授業の記録

今回のような授業の記録を昨年度は、全単元・全授業分、記録として残した。

約60ページの記録となつた。

各授業の記録の後に、その授業で「大切にしていること」も載せた。

例えば、

①教科書の音読を毎回、必ずどこかですること。

②ノートに、日付・何時間目か・天気・温度を毎回、書かせること。

③温度を書かせる前に、室内の温度を予想させて手を挙げさせること。

④列指名で全員発言をさせたこと。

⑤時間を限定して、何個書けるかに挑戦させること。

⑥黒板を一面全面を使っていること。(何かを貼ったり、メモを書いたりしないこと)

⑦問いの後に、1人か2人当てて、例を出させること。

のように。69まである。

今年度、三年理科担当の方で、希望する方には、メールで送る。希望の方は、

[kentchi97@gmail.com](mailto:kentchi97@gmail.com)まで、連絡いただきたい。

「大単元の導入 時間旅行」第一時間目

学力研常任委員 深沢 英雄

一、はじめに

今月から歴史授業一時間目からの授業展開について連載をしていきます。全部で七十三時間です。どこまでいけるかわかりませんが、コツコツ続けていきます。教科書は日本文教出版（日文）です。二月の先生のための学校での講座の全体を紹介することからスタートしましょう。

二、教科書の構成

第一時間目は、大単元の導入です。教科書（日文）では、「時間旅行に出かけよう」と題して、六十二ページから六十七ページまでの六ページを一時間で学習します。

内容は三つです。①自分たちの住むまちなかに、歴史のサインを見つける。②博物館を探検する。③調べたことをまとめる。歴史を学ぶ四つのまとめ方として、「1、時の流れに着目して、年表をつ

くる。2、人物に着目して、そのかつやくを紹介する。3、人々のくらしや文化に着目して、表や図にまとめる。4、地形に着目して、歴史地図をつくる。

内容はどれも歴史の学習にとって大事なことです。この内容は七十三時間の中で取り上げて、子どもたちが「そうだな。大事だな。おもしろいな。」と思えるように授業を作っていくべきという、教師へのメッセージのように感じます。教科書の文を読んで、板書にまとめて子どもに説明しても意味がありません。

この一時間は、歴史学習七十三時間の導入です。教科書にあるように「さあ、日本の歴史を学ぶ時間旅行に出発しよう。」と子どもたちがワクワクするような導入をしたいものです。日本の教師は、導入をとっても大切に授業をしてきました。「つかみ」です。つかみは色々な分野で

も重要です。プレゼン・自己紹介（第一声）・文章（書き出し）・話・笑い（まくら）等々、人の興味をひき、感情を動かすことが「つかみ」の重要な役割です。

若い頃、色々な実践を学びました。「地球が誕生してから、現在までをメートルにテープで表し、人類が生まれたのは、どのあたりでしょうか。」とか「四六億年の歴史を一年間で表してみると十二月三十一日午後十一時五十九分四十六秒が西暦0年。一人の人間の一生は一秒にもなりません。」などそれまで知らなかった知識と授業方法を教えてもらいました。

私もそれに学んで、「アウストラロピテクスの実物大の想像図」を見せることを導入にしたこともあります。現在知られている中で最も古い人類は、約七百万年前にアフリカに出現した「猿人」であり、特にサヘラントロプス・チャデンシスが最古の人類化石とされています。この猿人は、すでに二足歩行をしていたと考えられています。中・高の教科書には昔、アウストラロピテクスがのっけていま

したが今は見当たりません。

導入は教師が目の子どもや自分が何を教えたかという思いで選択すればいいので、多様・多彩でいいと思います。

### 三、第一時間目（導入の授業）

教科書の内容を使いながらの導入としての例を紹介します。

六六ページに年表の説明があります。「歴史の勉強で年表を丸暗記する必要はない」「年表や年号を覚えることが嫌いで歴史が苦手になった」等々、年表が退屈に感じられるのは、数字が「意味を持たない記号」として頭に入ってくるからです。一六〇〇年、関ヶ原の戦いという数字が歴史の中でどんな位置にあり、なぜそれが重要なのかが見えていないと記憶にも定着しにくくなります。年号を「意味ある情報」としてとらえ、歴史の流れを理解するには、ある程度の時間軸の感覚が必要です。時間旅行する上で、年表は「地図」のようなものです。

年表を導入につかった実践です。教科書六十九・七十ページに年表がのっています。これを使って授業をします。



◎みんなは何年生まれかな●○○年！

◎一年を〇、五mmとします。そうすると、みんなは一二歳だから六mmの長さ生きてきたことになります。（その後に、父母祖父母曾祖父母などを聞きます。令和、平成、昭和、大正、明治を確認します）

（今年は、二千二十六年。長さでいうとこれだけですと、横長の紙を示します。それには、教科書の年表と同じように年代の区切りをいれておきます。色も同じものをつかってつくります。二千年で1mです。）

◎歴史上の人物で知っている人・気になっている人・好きな人 三人名前をあげてください。その中で一人決めて下さい。年表をはります。まだ歴史を勉強してないので、間違ってもいいので、どの時代の人か、はってください。みんなが使っている社会科学資料集に人物カードがあるので、貼ってみましょう。このカードにない人はこの白いカードに書いてください。（子どもたちが歴史に興味を持ったための工夫です）その次に、

◎次の時間から勉強する縄文時代の教科書（先に示した教科書です）を見てください。

(黒板には、千年が1mの年表がはっています。年表は弥生時代までしかありません。長さは1m20cmほど)教科書の年表と見比べて、縄文時代は黒板でいうとどこまでかな?縄文時代はどこまでかな 印をつけてください。班で相談して、黒板にここからが縄文時代ですよと先生が渡す磁石を黒板に貼ってください。(班で相談をさせます。)

◎どの班もできましたね。教科書七十三ページを読んでみましょう。

「今から約一万二〇〇〇年前から約二千年〇〇年前まで続いた時代」

◎先生が正解を言いますと言って(縄文時代の長さの年表の長い紙を黒板に貼っていきます。約6mです。黒板からははみ出します。子どもたちは「えーっ」と驚きます。教科書の年表では、弥生時代までの年表のよりも少し長い程度です。縄文時代(約一万年)と書いていますが、正確な長さではないので、ここでひっかかってしまうのです。その後に、六十六〜六十七ページにある、等尺年表の説明をします。教科書には、「年月を同じにはばであらわした年表のこと。」

時間の長さを正確にとらえるのに役立ちます。」とあります。西暦・世紀の解説もします。子どもたちは、教科書がウソを書いている。だまされたという子もいます。スペースの関係で縮小していること、こういう修正が資料にはあるので、自分の頭でしっかりと考えて、どれが正しいのかつかんで欲しいという願いが教師にはあります。

#### 四、この連載の意味

素材は、社会の歴史の授業ですが、「教科書」を「と」で「教え・学ぶ」ことが底流に流れています。他学年の社会や他の教科にも共通する点があると思います。教科書も共通する点があると、基礎知識の定着・共通の土台・効率的な学習。教科書で教えることで、「思考力の育成・応用力の向上・学習意欲の向上」をめざしたいものです。教科書はかなり考えられて作成されていますが紙面や学習指導要領に制約を受けています。他の教科書のよい資料を使ったり、足りない資料を追加したりして子どもが「楽しい、おもしろい」「もつと知りたい調べたい」という授業をつくるにはどうすればいいか共に考えていきましょう。

**歴史学習の根本を学ぼう!!**

③調べたことをまとめる

**キーワード**  
等尺年表  
年月を同じにはばであらわした年表のこと。時間の長さを正確にとらえるのに役立ちます。  
西暦  
イエスキリストが生まれたと考えられていた年を1(元)年として、年を取ります。  
世紀  
西暦を100年単位で区切ったあらゆる方法。今は21世紀です。

縄文時代(約1万年)

1cm  
400年  
等尺年表

歴史では、社会や文化の持ちようごとに「時代」を分けて説明します。時代には、そのころ盛んにつくられたものや、政治の中心となった地名などの名前がつけられています。

れんさんたちは、自分たちの住むまちや、博物館探検をもとに、等尺年表を見ながら、古墳時代と奈良時代の歴史のサインを、それぞれまとめてみました。

西暦元年

弥生時代(約700年) 奈良時代(約80年) 令和時代  
古墳時代(約300年)

歴史を説明する れんさんたちは、これから歴史の学習を進めていくために、三つの見方・考え方(視点)を先生に教えてもらいました。

**見方・考え方** 空間  
学習する時代のようすは、まずどのようなものだったか、想像画などから、その時代にタイムスリップしてみよう。

**時間**  
その時代の人々の生活のようすや、中心となったまちなどを調べてみよう。  
時代は、自然や世帯であらわされるよ。

**相関**  
それぞれの時代や人物がどのように関係しているか、考えよう。  
また、当時のできごとどうしの関係にも注目してみよう。

リレー連載「来年度の全国大会講演者新井紀子さんについて」

## シン読解力をめぐる冒険 新井先生の魅力

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

### シン読解力をめぐる冒険

夏のフォーラムに新井紀子先生をお呼びすることになった。学力研の常任は大喜び、早速出来上がってきたビラもカラフルですばらしい。

このビラの冒頭には「教科書とノートでどの子も伸ばす。できた！ わかった！ 繋がった！」と刺激的なスローガンが掲げられています。

こんな当たり前のスローガンが刺激的であると言わなければならぬほど、教育現場は厳しいのです。

大学卒業して五十三年間、ずっと担任を今も続けている学力研のレジエントの先生が「今ほど面白くない時はない。教育つてもっとクリエイティブなものであったはず。これでは教員のなり手がないのも無理はない。目の前の子どもが一番わかりやすく担任が一番得意とする方法で取り組んでこそ、教育は力を発揮するのよ。指導要領に則り、教科書を使っ

て授業を創っているのに創意工夫を許さないなんておかしいよ。このままでは教育は死ぬわ」と

私は先生の御本「A I V S教科書が読めない子どもたち」「シン読解力」を何回も何回も読みました。初めはなんか、昨年のM1グランプリで優勝した『たくろう』の漫才をみるようで面白くて面白くて、文章に線を引いたり、欄外にオモシロイ！と連発で書いたり、ここが聞きたい、重要 ☆◎⇒や□で囲んだりと散々に書き込み、付箋を貼り、揚げ句の果てに第5章『シン読解力』の土台を作る』では「どうすればいいんだ、はやく述べろう」なんて悪態をつきながら読み切りました。

しかし、はじめの何回かは、すごい違和感があったのです。あのたくろうの漫才の間のような、ミスタービーンのあの間合いの悪さのような違和感。この違和感が何なのか。それはこういうことなのです。

\*「教科書を読み解くために必要な読解力のことを「シン読解力」と名づける

\*RSTは「知識や情報を伝達する目的で書かれた自己完結的な文書」

など定義文を明確に定めて論議することへの違和感だったのです。

私をはじめ多くの教師はこのような定義文から論理を展開することが苦手なのです。これが違和感の元だったのです。これは先生がご指摘の正に日本国中、シン読解力不足の現れと言えるもので直ちに改善に取りかからねばならない問題だと感じました。

私たち教師にとって、「シン読解力」は今までの「古典的読解力」の弱点や盲点を指摘頂いたものであり、今までの読解力育成課題に付加すべき貴重な指摘であるのです。

第5章の「シン読解力」の土台を作る  
第6章の「シン読解力」のトレーニング  
法」

については私たち学力研の十八番のような分野であります。音読、視写、板書の共書きなどは一斉授業の当然の技術として「発問、板書、ノート指導」を一斉授業の三種の神器として大切にしてきた所です。その意味でシン読解力の基礎は私たちの研究会は整っている

と考えますので、初等普通教育の教諭としてシン読解力の素地づくりの観点からブラッシュアップすべき課題と受け取っています。

#### 第4章の「学習言語」を解剖する

については、私の恩師である岡本夏木先生の著書「ことばと発達」（岩波新書、1985年発行）の一次言語と二次言語 学齢期の二次言語の獲得における教師の役割などはよく議論したものだと思ひ出しと同時に発達についての学習が年々曖昧になり、昨今の教育現場では皆無に近いなあと反省する所です。先生の御本を参考に発達についての学習が盛んになることを願うものです。

発達の観点、初等普通教育の観点からすると、今流行りの「反転学習」「自由進路学習」「探求型学習」否、「主体的、対話的で、深い学び」ですら、学力をつけること、読解力をつけることという点では徒勞であると考えますし、初等普通教育ではメインになる学習形態とはとても思えないのです。そんなものが教育委員会のごり押しで行われていることこそ異常な教育事情だ考えています。私事ですが、7月発売予定の『不滅の一斉授業 学習規律・教師権能の復権』には、ビゴツキーの最近接発達の理論から少し批判を

かきました。一平教員の視点からの教育批判であります。読んでいただければ幸いです。

第3章の「学校教育で『シン読解力』は伸びるのかについて

「・・・身も蓋もない結果恐縮です。学校教育が『シン読解力』を決める、それは先生たちの熱意や工夫であり、保護者と先生方のコミュニケーションや、一人ひとりの子どもにいかにか寄り添うかで決まると書いたらどんなにいいかと思ひますでも、データがそれを許してくれません。私は科学者ですから、データからわかったことを、淡々とお伝えするだけです。」

何！それはないだろう。さんざん人をウキウキさせておいて私はガクつと肩をおとした。でも次に地味に文章は続けていました。

『シン読解力』は、子どもたちの成長にもなう自然な伸びに任されてきました。何かの偶然によって、たまたま発達と環境がと素質がかみ合った子は、無意識にのうちに高い『シン読解力』を身につけます。『シン読解力』が高めれば、投資した時間に比例して成績が伸びます。その成功体験が読解への自信につながり、さらに高度な文書を読み解いていけるようになるので

す。」と

私は「子どもの成長にもなう自然な伸びに委ねられてきました。何かの偶然によって」という所に深々と何重にも線をひいた。

私はとても燃えてきたのです。新井紀子先生は五十万人分のデータから科学者としてうそ偽りなく真実を述べてくださっている。次は私たち教育実践者の出番であると、データは過去の事実を伝え、近未来を予想する。しかし私たち実践家は子どもたちと共に未来を創ることができるのである。

五十万人のデータがそう語るのなら、私たちは億千万の実践でその結論を覆してみせると・・・。

「偶然是必然の現象形態である」とエンゲルスがいったように、億千万の偶然の中から、実践と議論を積み重ね必ずや豊饒なギフトを子どもたちに授けようではないか。私は心に誓ったのです。『シン読解力』を絶対に流行では終わらせない。『シン読解力』を教育における不易なものとして、新井紀子先生の導きと億千万の実践で必ずや教諭の権能を十分に生かした実践として実現すると。

# 局長だより 4月

## ◇学力研最新情報 岸本 ひとみ ○夏の全国フォーラムは

出張or研修で

8月1日(土)の夏の全国フォーラムに、大阪市・大阪府教育委員会の後援を受けることができました。これで、申し込みされる方の出張申請や研修申請がしやすくなったことと思います。

## ★日時 8月1日(土)

会場 エルおおさか

(京阪・谷町線天満橋駅)

午前 全体会

・実践報告 岡本 美穂

**記念講演 新井紀子さん**

午後 学年別講座

中学・高校・

家庭教育分科会

参加費 4000円

※当日いただきます。

## ○会員先行申し込み受付中です

3月初旬より、2026年度の会員継続と新入会を受け付けています。年会費は4000円です。

会員の方は、全国フォーラムの先行申し込みができます。今年も、

新井紀子さんの講演があるので、早目に申し込みいただかないと、参加が難しいかもしれません。

また、会員になっていただければ、学力研のオンライン講座全てに、無料で参加いただけます。対面の学習会も、割引特典があります。全国フォーラムも、一般4000円ですが、会員の方は3500円となります。

おすすめのオンライン講座は、1年生講座です。年10回予定で、1回参加は1000円ですが、会員の方は、全部参加いただくことができます。3月に第1回と2回がありました。4月以降でも、8回あります。つまり、8000円が半額の4000円ということになります。

お試して1回参加され、1000円お支払いいただき、継続して参加するので残金3000円を御支払い、という形でもOKです。ぜひこの機会にご入会下さい。

## ◇事務局だより 岡本 美穂

### ●春の先生のための学校

#### 第1回 参加の感想

・教室に秩序を築けるのは教師だけ。久保先生の「ボスぎるになれ」という言葉が、たいへん意義深く心に残りました。本日も多くの学びと刺激をいただき、4月からの授業づくりに向けて大きな見通しをもつことができました。学力研の皆様へ感謝申し上げます。

・私は今年で教員4年目になります。初任研のころから、ICT活用・協働的な学び・複線型の授業を強く求められ、研究授業もその方向で組んできました。しかし、授業の進め方も板書もノート指導も曖昧なままタブレットを使い始めたため、私も子どもたちも授業中ずっと地に足がついていない感覚がありました。守破離の「守」を知らないまま「破」をやらされているような状態で、投げっぱなし・投げられっぱなし。手応えがないのは当然だったのだと、今なら分かります。だからこそ、この講座で、1年目に本当は学びた

かったことを学び直せる機会をいただけたことが、本当にありがたく感じています。貴重なお話をありがとうございました。また参加したいです。

### ■オンライン開催日程

・4月12日(日)

<https://www.kokuchpro.com/vent/ea7032b513ac4f0eda4e06051e10/>

・5月17日(日)

<https://www.kokuchpro.com/vent/2536359383c295511daa394d916ede6f8>

■学力研 年間会員のご案内  
・対面講座は500円引き  
・オンライン講座は1回1000円

・年間会員(4000円)になると、年会費お支払い以降、学力研主催のオンライン研究会に無料で参加できます

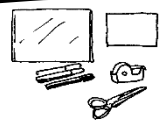
### 【事前振込先】

PayPay 銀行 うべいす支店

店番：008

普通：3607141 スギモトマナシ

# 学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2026年 4月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

4/

25 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

25 (土) みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

○春日井学力研 17時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697

○いろえんぴつ 18時半～ コミュニティセンターおおべ 岸本 090-9117-6330

○伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリヤ 前田 090-9715-3830

## 《全国キャラバン等 今後の予定》

### 【オンライン：会員限定】

#### ○春の先生のための学校

3月22日(日)【済】 4月12日(日) 5月17日(日) 【3回講座】

○1年生講座 4月18日(土) 5月23日(土) 6月27日(土) 8月22日(土)

9月26日(土) 10月24日(土) 11月28日(土) 2027.1月23日(土)

### 【対面講座】

○学力研 新学期スタート講座 4月4日(土) 13:30～ エルおおさか 606

講師：岸本ひとみ 荒井賢一 岡本美穂

○学力研 **全国フォーラム** 8月1日(土) 9:45～ 1日集会 エルおおさか

記念講演 新井紀子氏 ・ 実践報告 ・ 学年別講座&分科会

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ faxのみ：079-425-8781)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

加藤 英介 E-mail hgtrd533@yahoo.co.jp